

令和5年度宮崎県野鳥生息状況調査		10月中旬				令和6年3月中旬現在			
調査時期	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川
調査日		10/13/2023	10/13/2023	10/13/2023	10/13/2023	10/27/2023	10/27/2023	10/26/2023	10/27/2023
飛来状況	カモの渡りは始まったばかりで少ない。猛禽類の冬鳥としてチョウゲンボウ2羽が飛来。小鳥らしき餌を食べていた。	池前面にハスが覆い、観察が困難な中ホンハジロ、カイツブリ、パンなどが見られた。猛禽類としてはオオタカが出現した。	カルガモの群の中にマガモとの交雑種が1羽混じっていた。また、カルガモの近くにハンビロガモがいた。	カモ類は未だ少ない。猛禽類の冬鳥としてチゴハヤブサが観察された。	カモの数は少ない。ダイサギ・アオサギの数が多。河口でハヤブサの幼鳥が観察された。	池一面に繁茂していたハスが一部枯れ始めた。池の北側のハスのない部分でカモの観察が可能である。	カルガモが多かった。ヒヨドリが4羽見られ、電線にはツバメが4羽群れていた。マガンが1羽観察された。	カモ類の数は前回より若干増えたがまだ少ない。ジョウビタキが渡ってきたが、盛んに縄張り争いをしていた。	
	カモ科	ヒシクイ マガン シジュウカラガン コクチョウ コブハクチョウ コハクチョウ オオハクチョウ オンドリ ヒドリガモ キンクロハジロ	110		18	4 7 2	1	56	
検査優先種1	カイツブリ科	カイツブリ カンムリカイツブリ	1 6	1		13 6	2		
	ツル科	ナベヅル マナヅル							
検査優先種2	カモメ科	ユリカモメ							
	タカ科	オジロウシ オオタカ ノスリ							
検査優先種3	ハヤブサ科	ハヤブサ				1			
	カモ科	マガモ オナガガモ トモエガモ ホンハジロ スズガモ	2 1			24 1	16	3 2	
検査優先種2	タカ科	オオワシ クマタカ		2			20		
	フクロウ科	フクロウ							
検査優先種3	カモ科	カルガモ コガモ	53 6		57	23	253	171 111	
	カイツブリ科	ハジロカイツブリ			1	2		2	
検査優先種3	コウノトリ科	コウノトリ							
	ウ科	カウウ	2		2	8	9	24 17	
サギ科	アオサギ	23	1	3	2	40	2	1	

令和5年度宮崎県野鳥生息状況調査		10月中旬				令和6年3月中旬現在			
調査時期	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川
調査日		10/13/2023	10/13/2023	10/13/2023	10/13/2023	10/27/2023	10/27/2023	10/26/2023	10/27/2023
調査時期	調査日	10/13/2023	10/13/2023	10/13/2023	10/13/2023	10/27/2023	10/27/2023	10/26/2023	10/27/2023
	飛来状況	カモの渡りは始まったばかりで少ない。猛禽類の冬鳥としてチョウゲンボウ2羽が飛来。小鳥らしき餌を食べていた。	池前面にハスが覆い、観察が困難な中ホンハジロ、カイツブリ、パンなどが見られた。猛禽類としてはオオカキが出現した。	カルガモの群の中にマガモとの交雑種が1羽混じっていた。また、カルガモの近くにハンビロガモがいた。	カモ類は未だ少ない。猛禽類の冬鳥としてチゴハヤブサが観察された。	カモの数は少ない。ダイオサギ・アオサギの数が多。河口でハヤブサの幼鳥が観察された。	池一面に繁茂していたハスが一部枯れ始めた。池の北側のハスのない部分でカモの観察が可能である。	カルガモが多かった。ヒヨドリが4羽見られ、電線にはツバメが4羽群れていた。マガンが1羽観察された。	カモ類の数は前回より若干増えたがまだ少ない。ジョウビタキが渡ってきたが、盛んに縄張り争いをしていた。
検査優先種3	トキ科	クロツラヘラサギ	2			6			
	ツル科	タンチョウ							
		※検査優先種1,2以外全種							
	クイナ科	オオバン		1		23			2
	カモメ科	ウミネコ							
		セグロカモメ	2			1	2		
		※検査優先種1,2以外全種					1		
	タカ目	トビ	16	1	2	6	14		7
		※検査優先種1,2以外全種	4	1	1		3	2	1
		フクロウ目	コミミズク						
	※検査優先種1,2以外全種								
	ハヤブサ目	チョウゲンボウ	2			1			
	※検査優先種1,2以外全種								
	カラス科	ハシボソガラス	36		5	6	43	3	5
		ハシブトガラス	5	4	4	2	2	6	4
その他の種	キジ科	キジ							
	ハト科	キジバト			1		3	3	6
	サギ科	ゴイサギ							
		ダイサギ	9		5		33	1	3
		チュウサギ							
		ヨサギ	10		1		4		14
	トキ科	ヘラサギ							
	クイナ科	ヒクイナ							
		バン		1				1	
	シギ科	ダシギ							
	クサシギ								
	イソシギ				3				
ツバメ科	ツバメ	11	3	10		21	2	45	
ヒタキ科	ジョウビタキ					12	4	6	
スズメ科	スズメ	25		10	4	17		4	
セキレイ科	ハクセキレイ			4	4	6	1	1	
ホオジロ科	アオジ								
ハト科(外来)	カラバト(ドバト)				3			2	
	計(単位:羽)	320	20	107	83	563	65	292	233
	うちカモ類	172	2	58	43	310	36	173	174
	うち猛禽類	22	2	3	7	18	2	1	7
前年調査		148	22	310	72	588	110	95	193
前年調査(カモ)		69	1	45	15	349	82	48	136
うち猛禽類		5	0	3	3	15	1	4	2

令和5年度宮崎県野鳥生息状況		11月中旬				令和6年3月中旬現在				
調査時期	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
調査日		11/9/2023	11/9/2023	11/9/2023	11/9/2023	11/24/2023	11/25/2023	11/24/2023	11/24/2023	
飛来状況	調査日	11/9/2023	11/9/2023	11/9/2023	11/9/2023	11/24/2023	11/25/2023	11/24/2023	11/24/2023	
	飛来状況	ようやくカモの数が増えてきたが、まだ昨年同期の7割強である。カルガモとマガモが多い。猛禽類はミサゴが多く観られた。	池のハスは一部枯れてきたが、まだ大部分を覆っている。カモの数は全会の2倍に増えたが、昨年同期の半分である。	平和台大橋の上流では堆積した砂の撤去作業が行われていた。カモはマガモとカルガモがほとんどでヒドリガモは少ない。	この河口では記録の少ないマガモの集団(51羽)が観られた。河口内でゴムポートによる調査(2人)が行われていた。	小物数が約2,000羽になった。カルガモとマガモが多い。猛禽類はミサゴ・トビに加えてチュウヒ・オオタカ・ハヤブサが観られた。	池全面を覆っているハスは随分枯れてきたが、まだ湖面の視界を遮っており、カモは飛び回るものしかカウントできない。	カルガモとマガモは多い。ヒドリガモは100羽弱であり、カモ類は殆どがこの3種であった。カワウが群で羽を休めていた。	カモ類が増えてきた。ヒドリガモとカルガモが多く、コガモとオカヨシガモが50羽前後観られた。	
検査優先種1	カモ科	ヒシクイ								
	マガン									
	シジュウカラガン									
	コクチョウ									
	コブハクチョウ									
	コハクチョウ									
	オオハクチョウ									
	オシドリ									
	ヒドリガモ	34		21	93	138		87	227	
	キンクロハジロ					1				
カイツブリ科	カイツブリ	12	7	1	4	15	3	1	1	
カンムリカイツブリ					6		1	1		
ツル科	ナベヅル									
マナヅル										
カモメ科	ユリカモメ	3								
タカ科	オジロウシ									
オオタカ						1				
ノスリ										
ハヤブサ科	ハヤブサ					1				
検査優先種2	カモ科	マガモ	156	22	202	77	879	125	357	21
	オナガガモ	49				87		2		
	トモエガモ					1				
	ホシハジロ	5	25			20	42			
	スズガモ								1	
タカ科	オオワシ									
クマタカ										
フクロウ科	フクロウ									
検査優先種3	カモ科	カルガモ	533		276	70	613	2	583	191
	コガモ	9	30	2	39	142	6	2	54	
	※検査優先種1,2以外全種	12	2	2	20	74	2	4	52	
	カイツブリ科	ハジロカイツブリ					3			1
	※検査優先種1,2以外全種									
コウノトリ科	コウノトリ									
ウ科	カウウ	143	2	30	13	26	1	125	29	
サギ科	アオサギ	20	3	1	2	19	1	3	2	

令和5年度宮崎県野鳥生息状況

令和6年3月中旬現在

調査時期	11月中旬				11月下旬					
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
調査日	11/9/2023	11/9/2023	11/9/2023	11/9/2023	11/24/2023	11/25/2023	11/24/2023	11/24/2023	11/24/2023	
飛来状況	ようやくカモの数が増えてきたが、まだ昨年同期の7割強である。カルガモとマガモが多い。猛禽類はミサゴが多く観られた。 池のハスは一部枯れてきたが、まだ大部分を覆っている。カモの数は全会の2倍に増えたが、昨年同期の半分である。 平和台大橋の上流では堆積した砂の撤去作業が行われていた。カモはマガモとカルガモがほとんどでヒドリガモは少ない。 この河口では記録の少ないマガモの集団(51羽)が観られた。河口内でゴムポートによる調査(2人)が行われていた。 小物数が約2,000羽になった。カルガモとマガモが多い。猛禽類はミサゴ・トビに加えてチュウヒ・オオタカ・ハヤブサが観られた。 池全面を覆っているハスは随分枯れてきたが、まだ湖面の視界を遮っており、カモは飛び回るものしかカウントできない。 カルガモとマガモは多い。ヒドリガモは100羽弱であり、カモ類は殆どがこの3種であった。カワウが群で羽を休めていた。 カモ類が増えてきた。ヒドリガモとカルガモが多く、コガモとオオカヨシガモが50羽前後観られた。									
検査優先種3	トキ科	クロツラヘラサギ	7			13				
	ツル科	タンチョウ								
		※検査優先種1.2以外全種								
	クイナ科	オオバン	33	2		10	29	1	28	
	カモメ科	ウミネコ				2			4	
		セグロカモメ	5			4	16		13	
	※検査優先種1.2以外全種									
	タカ目	トビ	11			2	18		2	4
		※検査優先種1.2以外全種								
	フクロウ目	コミミズク	6		1		3		1	
	※検査優先種1.2以外全種									
	ハヤブサ目	チョウゲンボウ								
	※検査優先種1.2以外全種									
	カラス科	ハシボソガラス	17	2	3	17	4	2	7	4
		ハシブトガラス	14	5	2	46	12	4	4	5
キジ科	キジ									
ハト科	キジバト	20	3	30	3	5	2	2		
サギ科	ゴイサギ									
	ダイサギ	15		3		3		6		
	チュウサギ									
	ヨサギ	5		6		2		1	1	
トキ科	ヘラサギ									
クイナ科	ヒクイナ									
	バン					1				
シギ科	タシギ									
	クサシギ									
	イソシギ	1			1	1		3		
ツバメ科	ツバメ	6		99		5	2	20		
ヒタキ科	ジョウビタキ	9	4	2	4	8	5	3		
スズメ科	スズメ	6		4	3			3		
セキレイ科	ハクセキレイ	3	2	2	7	4		3	4	
ホオジロ科	アオジ					2	1			
ハト科(外来)	カワラバト(ドバト)			4	7					
計(単位:羽)		1,137	109	691	424	2,152	199	1,215	648	
うちカモ類		798	79	503	299	1,955	177	1,036	545	
うち猛禽類		17	0	1	2	23	0	3	4	

前年調査	1,095	190	494	813	1,503	660	794	321
前年調査(カモ)	955	160	394	576	1,319	619	684	213
うち猛禽類	15	1	2	3	13	0	2	1

令和5年度宮崎県野鳥生息状況

令和6年3月中旬現在

調査時期	1 2月中旬					1 2月下旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
調査日	12/16/2023	12/15/2023	12/14/2023	12/14/2023	12/29/2023	12/27/2023	12/29/2023	12/28/2023	12/28/2023	
飛来状況	調整池一面に沢山のカモが飛来しており、時々大きな群で飛び立ち、川と行き来していた。オナガガモが多かった。	ハスの葉は随分枯れてきたが、まだといったところである。マガモを中心にカモは増えてきたが、例年に比べて少ない。	平和台大橋下の左岸寄りにある中洲の樹木が伐採され、重機が稼働していた。昨年同様にカモは少なかったが、例年に比べて少ない。	カモの総数は前回調査より少ないが、今季初スズガモを記録した。猛禽類ではハイロヒが上流へ飛んでいった。	カモの飛来が3,000羽を超えた。調整池の中洲の木の下にオオバンの落鳥があった。	ハスが枯れてきた。カルガモ・オシドリが増えており、今季初めてトモエガモを記録した。	マガモ・カルガモが多く、昨年同様の約1.5倍である。猛禽類もハヤブサが現われて、カモが一斉に飛び立った。	ヒドリガモ・カルガモが多い。カモの数は、先月下旬とほぼ変わらない。カモは、河川敷上や水路で多く観察された。		
検査優先種3	トキ科	クロツラヘラサギ	30			1				
	ツル科	タンチョウ								
		※検査優先種1,2以外全種								
	クイナ科	オオバン	30	3	2	14	26	4	8	
	カモメ科	ウミネコ				14				21
		セグロカモメ	2			8	5			4
	※検査優先種1,2以外全種									
	タカ目	トビ	18			2	21			1
		※検査優先種1,2以外全種								
	フクロウ目	コミミズク	7		2		6		1	
	※検査優先種1,2以外全種									
	ハヤブサ目	チョウゲンボウ								1
	※検査優先種1,2以外全種									
	カラス科	ハシボソガラス	9		5	10			2	4
		ハシブトガラス	20	6	17	5	21	5	1	2
キジ科	キジ		1	1						
ハト科	キジバト	17	2		7	1	3	2	2	
サギ科	ゴイサギ	2					1			
	ダイサギ	15	1	8		1	23	8		
	チュウサギ									
	ヨサギ	5		2		6		2		
トキ科	ヘラサギ	6				3				
クイナ科	ヒクイナ									
	バン					1				
シギ科	ダシギ	4								
	クサシギ					1				
	イソシギ	4		1	1	2			2	
ツバメ科	ツバメ	12	2	60		8		10		
ヒタキ科	ジョウビタキ	3		1		5	3	2	2	
スズメ科	スズメ	41			2	10			2	
セキレイ科	ハクセキレイ	4	1	6	7	3	2	4	3	
ホオジロ科	アオジ		1			1		3	1	
ハト科 (外来)	カワラバト (ドバト)				6					
計(単位:羽)		3,036	558	1,308	522	3,317	833	1,547	572	
うちカモ類		2,638	524	1,175	372	3,162	771	1,493	493	
うち猛禽類		26	1	2	2	27	1	2	2	

前年調査	1,285	1,086	1,026	622	1,826	659	1,150	619
前年調査(カモ)	1,053	1,045	956	552	1,603	597	945	540
うち猛禽類	19	0	3	2	31	2	3	4

令和5年度宮崎県野鳥生息状況		令和6年3月中旬現在								
調査時期		1月中旬				1月下旬				
調査地名		一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
調査日		1/13/2024	1/12/2024	1/12/2024	1/11/2024	1/26/2024	1/26/2024	1/26/2024	1/26/2024	
飛来状況	カモの総数は前回より半減したが、前年同期比の123%である。カワウの約150羽の群れが編隊で飛翔した。	カモの数は前回とほぼ変わらない。前回に比べてマガモ・ホンハジロが増えてカルガモが減った。オオタカ・ノスリを記録した。	カモの数は前回より若干減少した。マガモ・カルガモが減ってヒドリガモが増えた。	カモの数は前回より半減したが、前年同期比の90%程度である。前回に比べてカルガモが減少した。カワウ約200羽が海から飛来した。	カモの数は前回より減少している。マガモ・オナガガモ・コガモの数が減少している。	マガモ・カルガモの数が前回より若干増えており、カモの総数が少し増えている。今冬初めてヒドリガモが現われた。	カモの総数は前回と変わらないが、マガモが増加してヒドリガモが減少している。	カモの数は前回より若干増加した。オオタカ・ヒドリガモが多くなった。		
	カモ科	ヒシクイ								
		マガン								
		シジュウカラガン								
		コクチョウ								
		コブハクチョウ								
		コハクチョウ								
		オオハクチョウ								
		オシドリ		19				50		
		ヒドリガモ	109		255	121	156	42	182	158
	キンクロハジロ	12				6	4			
カイツブリ科	カイツブリ	12	6	1	1	9	5	1	2	
	カンムリカイツブリ	8	1	2	2	4	1		2	
ツル科	ナベヅル									
	マナヅル									
カモメ科	ユリカモメ									
タカ科	オジロウシ									
	オオタカ		1	1						
	ノスリ		2				1			
ハヤブサ科	ハヤブサ									
検査優先種 1	カモ科	マガモ	714	606	294	3	555	650	531	2
		オナガガモ	314			15	100			40
		トモエガモ		20				15		
		ホシハジロ	100	137			67	133		
		スズガモ	12				15			
タカ科	オオワシ									
	クマタカ									
フクロウ科	フクロウ									
検査優先種 2	カモ科	カルガモ	346	28	792	51	381	56	739	50
		コガモ	111	16		59	54			41
		※検査優先種1,2以外全種	71	10		66	71	9		119
	カイツブリ科	ハジロカイツブリ	2			1	1			
	※検査優先種1,2以外全種									
コウノトリ科	コウノトリ									
ウ科	カワウ	157	2	1	217	158	1	8	10	
サギ科	アオサギ	8	3	1	4	6	4		2	

令和5年度宮崎県野鳥生息状況		令和6年3月中旬現在							
調査地名	調査時期	1月中旬				1月下旬			
	調査日	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川
調査日	1/13/2024	1/12/2024	1/12/2024	1/12/2024	1/11/2024	1/26/2024	1/26/2024	1/26/2024	1/26/2024
	飛来状況	カモの総数は前回より半減したが、前年同期比の123%である。カワウの約150羽の群れが編隊で飛翔した。	カモの数は前回とほぼ変わらない。前回に比べてマガモ・ホンハジロが増えてカルガモが減った。オオタカ・ノスリを記録した。	カモの数は前回より若干減少した。マガモ・カルガモが減ってヒドリガモが増えた。	カモの数は前回より半減したが、前年同期比の90%程度である。前回に比べてカルガモが減少した。カワウ約200羽が海から飛来した。	カモの数は前回より減少している。マガモ・オナガガモ・コガモの数が減少している。	マガモ・カルガモの数が前回より若干増えており、カモの総数が少し増えている。今冬初めてヒドリガモが現われた。	カモの総数は前回と変わらないが、マガモが増加してヒドリガモが減少している。	カモの数は前回より若干増加した。オカヨシドリガモが多くなった。
検査優先種3	トキ科	クロツラヘラサギ	1						
	ツル科	タンチョウ							
		※検査優先種1,2以外全種							
	クイナ科	オオバン	52	8	10	23	40	5	38
	カモメ科	ウミネコ				8			3
		セグロカモメ	8			15	7		11
		※検査優先種1,2以外全種							
	タカ目	トビ	6		1	4	7	1	1
		※検査優先種1,2以外全種	4		1		4		1
		※検査優先種1,2以外全種							
フクロウ目	コミミズク								
	※検査優先種1,2以外全種								
ハヤブサ目	チョウゲンボウ								
	※検査優先種1,2以外全種								
カラス科	ハシボソガラス	4	2	4	4	1	3	2	
	ハシブトガラス		5		4	1	7	1	
キジ科	キジ								
ハト科	キジバト	4	3	18	3	1	8	3	
サギ科	ゴイサギ								
	ダイサギ	5	27	9		4	24	8	
	チュウサギ								
	ヨサギ	2		2	1	3		10	
トキ科	ヘラサギ	1				2			
クイナ科	ヒクイナ								
	バン				1				
シギ科	ダシギ								
	クサシギ		2						
	イソシギ	5			1	5		2	
ツバメ科	ツバメ	5	2	30				15	
ヒタキ科	ジョウビタキ	2	3		1	3	4	2	
スズメ科	スズメ	2		8	14	2		2	
セキレイ科	ハクセキレイ	4	1	2	6	8	1	2	
ホオジロ科	アオジ	2				1	2		
ハト科(外来)	カワラバト(ドバト)			3				8	
	計(単位:羽)	2,083	904	1,435	625	1,672	1,026	1,554	499
	うちカモ類	1,789	836	1,341	315	1,405	959	1,452	410
	うち猛禽類	10	3	3	4	11	2	2	2

前年調査	1,643	637	1,160	442	581	583	1,411	438
前年調査(カモ)	1,450	566	1,098	348	429	973	1,221	320
うち猛禽類	23	2	0	0	13	3	2	4

令和5年度宮崎県野鳥生息状況		令和6年3月中旬現在								
調査地名	調査時期	2月中旬				2月下旬				
	調査日	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
飛来状況	調査日	2/9/2024	2/8/2024	2/9/2024	2/8/2024	2/22/2024	2/24/2024	2/26/2024	2/22/2024	
	飛来状況	1月に入って減少傾向だったカモの数が一気に増加し渡りの兆候と見られる。ホシハジロと思われるカモの落鳥が浮いていた。	カモの総数が1,000羽を超え今季最高となった。アオサギが2箇所で営巣し、抱卵中であった。	カルガモの数が増え、1,000羽を超えた。カモの総数も今季最高となった。	カモが徐々に減少してきている。ヒドリガモが半減している。カワウの婚姻色が見られるようになった。	カモの数が一段と減少して1,000羽を下回った。特にマガモの減少が著しい	カモの数が減少し、特にマガモが減少している。検査優先種1のヒシクイが2羽カウントされた。	カモの数が減少し、特にマガモが減少している。カルガモの数は前回と変化がない。	カモの数が減少し、特にマガモが減少している。アオサギ成鳥25羽の集団が観察された。	
検査優先種1	カモ科	ヒシクイ					2			
		マガン								
		シジュウカラガン								
		コクチョウ								
		コブハクチョウ								
		コハクチョウ								
		オオハクチョウ								
	オシドリ		12				5			
	ヒドリガモ	125	145	272	76	143	182	221	105	
	キンクロハジロ	22	4			2	3			
	カイツブリ科	カイツブリ	12	7			10	5	1	
		カンムリカイツブリ	4	1	2	1	2	1	5	1
	ツル科	ナベヅル								
マナヅル										
カモメ科	ユリカモメ									
タカ科	オジロウシ									
	オオタカ		1				1			
	ノスリ									
ハヤブサ科	ハヤブサ	1								
検査優先種2	カモ科	マガモ	1,009	614	601	4	90	358	387	2
		オナガガモ	824		2	65	19		1	7
		トモエガモ		286				211		
		ホシハジロ	82	90			53	48		
		スズガモ	20				1			
	タカ科	オオワシ								
フクロウ科	クマタカ									
フクロウ科	フクロウ									
検査優先種3	カモ科	カルガモ	281	42	1,059	105	308	18	1,064	50
		コガモ	105	24		13	184	22	4	34
		※検査優先種1,2以外全種	27	35		47	18	40		24
	カイツブリ科	ハジロカイツブリ	4							
	コウノトリ科	コウノトリ								
ウ科	カウウ	19	5	4	10	20	5	1	103	
サギ科	アオサギ	5	4			3	15		26	

令和5年度宮崎県野鳥生息状況 令和6年3月中旬現在

	調査時期	2月中旬				2月下旬				
		調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川
		調査日	2/9/2024	2/8/2024	2/9/2024	2/8/2024	2/22/2024	2/24/2024	2/26/2024	2/22/2024
	飛来状況	1月に入って減少傾向だったカモの数が一気に増加し渡りの兆候と見られる。ホシハジロと思われるカモの落鳥が浮いていた。	カモの総数が1,000羽を超え今季最高となった。アオサギが2箇所で営巣し、抱卵中であった。	カルガモの数が増え、1,000羽を超えた。カモの総数も今季最高となった。	カモが徐々に減少してきている。ヒドリガモが半減している。カワウの婚姻色が見られるようになった。	カモの数が一段と減少して1,000羽を下回った。特にマガモの減少が著しい	カモの数が減少し、特にマガモが減少している。検査優先種1のヒシクイが2羽カウントされた。	カモの数が減少し、特にマガモが減少している。カルガモの数は前回と変化がない。	カモの数が減少し、特にマガモが減少している。アオサギ成鳥25羽の集団が観察された。	
検査優先種3	トキ科	クロツラヘラサギ	14				15			
	ツル科	タンチョウ								
		※検査優先種1,2以外全種								
	クイナ科	オオバン	32	5	12	10	22	5	13	
	カモメ科	ウミネコ				11			25	
		セグロカモメ	12			14	5		25	
		※検査優先種1,2以外全種				2				
	タカ目	トビ	8	3	1	2	9	2	1	
		※検査優先種1,2以外全種	2	2	2		3	1	2	
		フクロウ目	コミミズク							
	※検査優先種1,2以外全種									
	ハヤブサ目	チョウゲンボウ								
	※検査優先種1,2以外全種									
	カラス科	ハシボソガラス	1	4	3	8	8	2	3	
		ハシブトガラス	6	8	1	14	4	5	1	
	キジ科	キジ								
	ハト科	キジバト	1	2	3	5	8	3	2	
	サギ科	ゴイサギ								
		ダイサギ	3		12			3	10	
		チュウサギ						1		
		ヨサギ	3		24		2		15	
	トキ科	ヘラサギ	3				4			
	クイナ科	ヒクイナ								
		バン								
	シギ科	ダシギ								
		クサシギ								
		イソシギ	4				1		1	
	ツバメ科	ツバメ	3	6	12	2	3	50	2	
	ヒタキ科	ジョウビタキ	3	3	1	2	1	2	1	
	スズメ科	スズメ	12			11	11		15	
	セキレイ科	ハクセキレイ	6	1	4	3	1		3	
	ホオジロ科	アオジ	1	1			3	2		
	ハト科(外来)	カワラバト(ドバト)							5	
	計(単位:羽)		2,654	1,305	2,015	405	953	992	1,758	
	うちカモ類		2,495	1,252	1,934	310	818	889	1,678	
	うち猛禽類		11	6	3	2	12	4	3	

前年調査	1,634	688	1,192	343	996	702	610	349
前年調査(カモ)	1,487	621	1,075	220	894	624	514	255
うち猛禽類	9	2	5	3	10	2	4	3

令和5年度宮崎県野鳥生息状況		3月上旬				令和6年3月中旬現在				
調査地名	調査日	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
調査時期	調査日	3/2/2024	3/1/2024	3/1/2024	3/2/2024	3/15/2024	3/15/2024	3/15/2024	3/13/2024	
	飛来状況	カモの数は前回とほぼ変わらない。昨年同期と比較しても若干多い程度である。クロツラヘラサギは川の中洲と調整池を移動していた。	カモの総数が今季2度目の千羽超えとなった。トモエガモは殆どいなくなった。ヒドリガモとハシビロガモが今季最多となった。	カモの数は前回と変わらないが、昨年同期と比べると少ない。渡り途中と思われる100羽を越すツグミの群が飛んでいた。	前回と比べるとヒドリガモが激減したが、カモの総数では変化がない。ウミアイサが群れて採餌していた。	カモの数は一段と少なくなってきた。ヒドリガモとカルガモが増えたが、カモの総数では変化がある。クロツラヘラサギの群が中洲南端の砂地に集まっていた。	カモの数が1,000羽を超えた。ヒドリガモが非常に多いのは渡りの途中と思われる。アオサギは9箇所で営巣抱卵している。	カモの数は一段と少なくなってきた。渡り途中と思われるカハラがセンダンの木に群れて実を食べていた。	前回に比べてヒドリガモが増えたが、カルガモが約40%減少し、カモの総数としては減少している。渡りの後期と思われる。	
検査優先種1	カモ科	ヒシクイ								
		マガン								
		シジュウカラガン								
		コクチョウ								
		コブハウチョウ								
		コハクチョウ								
		オオハクチョウ								
		オシドリ								
	ヒドリガモ	285	406	334	23	325	728	46	46	
	キンクロハジロ	1	2			15				
	カイツブリ科	カイツブリ	7	6		4	7	7	6	3
		カンムリカイツブリ	4	1	1	3	4	1	1	2
ツル科	ナベヅル									
	マナヅル									
カモメ科	ユリカモメ									
タカ科	オジロウシ									
	オオタカ						1			
ノスリ										
ハヤブサ科	ハヤブサ									
検査優先種2	カモ科	マガモ	142	506	550	12	25	258	32	9
		オナガガモ		12		20	2			
		トモエガモ		8						
		ホシハジロ	32	48			33	40		
		スズガモ								1
タカ科	オオワシ									
	クマタカ									
フクロウ科	フクロウ									
検査優先種3	カモ科	カルガモ	334	13	899	128	359	2	322	73
		コガモ	58	36		14	12	24	3	25
		※検査優先種1,2以外全種	14	83		41		48		29
	カイツブリ科	ハジロカイツブリ								
コウノトリ科	コウノトリ									
ウ科	カウウ	15	5	5	39	39	6	3	42	
サギ科	アオサギ	5	12	3	2	3	19		1	

